



# つなぐ



## センターからのお知らせ

### ●中国四国ブロック合同推進員研修会について (2021年10月18日(月)開催)

「なぜやる?何やる? 脱炭素社会の実現をめざして ~コロナ禍でもできることを探そう~」と題し、脱炭素社会の実現のための推進員活動の活性化を目的として開催しました。

コロナ禍のため、各県の会場をリモートで繋いだ方式での開催となり、山口県会場では4名の参加がありました。(1名欠席)

講演「脱炭素社会構築と市民の役割」(講師:産業技術総合研究所 歌川 学氏)聴いた後、学んだことをご自身の活動に活かしていただくため、意見交換をしながら脱炭素アクションプランを作成しました。



### ●推進員勉強会について

推進員自身に講師を務めていただき、県内推進員のレベルアップを図るために開催している「推進員勉強会」について、今年度は岩国市の推進員である藤森様、臼井様にご出演いただき、2本の動画を制作するべく打ち合わせを重ねておりましたが、県内の新型コロナウイルス感染拡大に伴い、撮影は中止となりました。

感染拡大状況を鑑みながら、来年度の開催を検討しております。

### ●推進員研修会(報告会)について

2月7日(月)にKDDI 維新ホールにて開催を予定しておりましたが、推進員研修会(報告会)ですが、推進員勉強会と同様、県内の新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑み、対面での開催を書面開催へと変更させていただきました。

## 啓発教材(クイズ・動画・クロスワード)のご紹介

山口県地球温暖化防止活動推進センターでは、コロナ禍でも推進員の皆様に活動していただけるよう、教材としてご使用いただける啓発教材を作成してまいりました。ご自身の日々の活動・取組に活かしていただけますと幸いです。

※①~④につきましては、山口県センターHP「知ろう!学ぼう!」ページに掲載しております。

<https://www.yobou.or.jp/ycccachome/#topics>



### ①地球温暖化クイズ

「地球温暖化クイズ」をご用意いたしました。(全5問)  
3択式となっており、選択肢を選ぶと正解が表示される仕組みで、問題・解説については、ナレーション付きとなっています。



## ②環境動画「知ったか君とかんきょう深掘さんの地球を深掘り！！」

環境教育用動画をテーマ別に3本ご用意いたしました。

吉本芸人「山口ふく太郎さん・ふく子さん」が出演されており、山口県の環境問題に対する取組紹介等も織り交ぜながら、クイズ形式で楽しみながら学べる動画となっています。

ネット環境が無い方は、貸出教材用としてDVDもご準備しておりますので、ぜひご利用ください。



## ③カテゴリー別動画

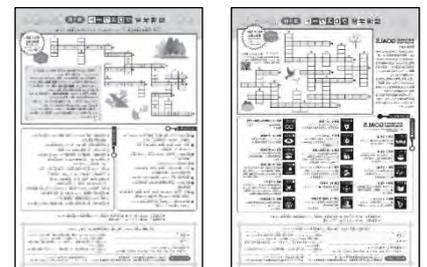
温暖化関連用語等の基礎動画としまして「日本の温室効果ガスの削減目標について」、「『2050年カーボンニュートラル』とは?」、「『地球温暖化』とは?」、の3本をご準備しております。(ナレーション入り)

簡潔で分かりやすく、出前講座等の一部分としてもご利用いただけるのではと思います。

## ④環境学習クロスワード（応募期間終了）

今年度も第3回・4回と、環境学習クロスワードの作成・発行を年2回行いました。たくさんのご活用、ご応募ありがとうございました。

第4回は1月末で応募を締め切っておりますが、来年度、第5回・6回を作成・発行予定です。ぜひご利用ください。



# スマートフォンアプリ「ぶちエコアプリ」のご紹介

## ●ぶちエコアプリ

皆さまの「ぶちエコ」なライフスタイル実践のため、山口県環境政策課が中心となり製作されました、スマートフォン向けのアプリです。

「ぶちエコ行動」の紹介、使用したエネルギーの記録ができる「エコ記録」、1日1回更新される「ぶちエコクイズ」、環境・エコに関する「動画」の紹介、県内のエコに関するイベントを紹介する「イベント」等、楽しみながら学習・情報収集が可能な多機能なアプリとなっています。

アプリ内で学習したり、クイズに答えたりすることで、「ぶちエコポイント」を獲得でき、3月6日（日）まではポイントを使って県内の協賛スーパーの商品券抽選に応募することが出来るキャンペーンも開催中です。

※「ぶちエコクイズ」では、推進員の皆様にご考案いただいた内容も出題されます！



## ●ぶちエコアプリのはじめ方

(1) アプリのダウンロード 以下 URL 又は上記 QR コードからアプリをスマートフォンにダウンロードしてください。

【アプリダウンロード先】⇒ <https://yamaguchi-eco.jp/store/>

(2) 新規会員登録 基本情報を入力し、「ぶちエコやまぐち宣言」をして登録してください。

(3) 登録完了！

登録メールアドレスあてに届くメール内のURLをクリックして登録完了！

詳細は山口県環境政策課ホームページをご覧ください。

⇒ <https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a15500/buchiecoapp/202111110001.html>





昨年 8 月、IPCC 第 6 次報告書が公表され話題となりました。また、その後 10 月から 11 月にかけて COP26 が開催され、脱炭素に向けた世界の潮流は一層加速しています。

今回は、これからの世界の潮流を決めるであろう、IPCC 第 6 次報告書と COP26 について解説します！

### ● IPCC 第 6 次報告書 (AR6)

IPCC (気候変動に関する政府間パネル) は地球温暖化や気候変動に関して世界中の専門家の科学的知見を集約し、最新の評価を提供している国連機関です。現在 195 の国と地域が参加しており、その報告には世界中が注目しています。

IPCC は 3 つの作業部会に分かれており、昨年 8 月 9 日に公表された報告書は、第 1 作業部会「温暖化の科学 (自然科学的根拠)」に関するものでした。(図 1.)

それによると、前回の第 5 次報告書では、「地球温暖化の主な原因は人間活動の可能性が 95%」としていたところ、「地球温暖化は人間の影響によるものなのは間違いない」ものであると断定した事 (図 2.)、気候変動における 5 つのシナリオを例に挙げ、最良のシナリオ (図 3. SSP1-1.9) 以外では 1.5 度以上の気温上昇の可能性があり「今後ただちに急減させネットゼロにもっていかなければ、1.5 度に抑えることは不可能となってしまう。」事を強調しました。

また、「0.5 度単位での気温上昇でも気候変動の影響は激甚化してくる」事を示し、1.5 度目標を目指す必要性がより具体的に示された内容となりました。

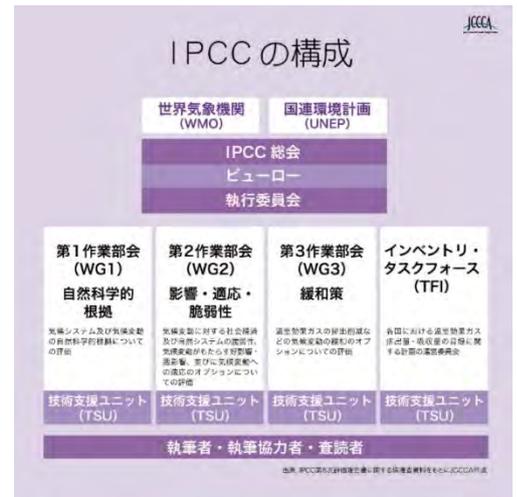


図 1. IPCC の構成

報告書	年	表現
第 1 次報告書 First Assessment Report Climate Change 1990	1990 年	「気温上昇を生じさせるだろう」 人為起源の温室効果ガスは気候変化を生じさせる恐れがある。
第 2 次報告書 Second Assessment Report Climate Change 1995	1995 年	「影響が地球の気候に表れている」 識別可能な人為的影響が地球の気候に表れている。
第 3 次報告書 Third Assessment Report Climate Change 2001	2001 年	「可能性が高い」(66%以上) 過去 50 年に観測された温暖化の大部分は、 温室効果ガスの濃度の増加によるものだった可能性が高い
第 4 次報告書 Fourth Assessment Report Climate Change 2007	2007 年	「可能性が非常に高い」(90%以上) 20 世紀半ば以降の温暖化のほとんどは、 人為起源の温室効果ガス濃度の増加による可能性が非常に高い。
第 5 次報告書 Fifth Assessment Report Climate Change 2013	2013 年	「可能性がきわめて高い」(95%以上) 20 世紀半ば以降の温暖化の主な要因は、 人間活動の可能性が極めて高い。
第 6 次報告書 Sixth Assessment Report Climate Change 2021	2021 年	「疑う余地がない」 人間の影響が大气・海洋及び陸域を温暖化させてきたことには 疑う余地がない。

図 2. これまでの報告書における表現の変化

多くの科学的知見を検証した結果、地球温暖化の原因は、人間活動によるものである事は、「疑う余地がない」と明記されました。

出典

- 図 1. 全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト (<https://www.jccca.org/>) より / IPCC 第 6 次評価報告書に関する環境省資料を元に JCCCA 作成
- 図 2. 全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト (<https://www.jccca.org/>) より / IPCC 第 6 次評価報告書を元に JCCCA 作成
- 図 3. 全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト (<https://www.jccca.org/>) より / IPCC 第 6 次評価報告書 WG1 を元に JCCCA 作成

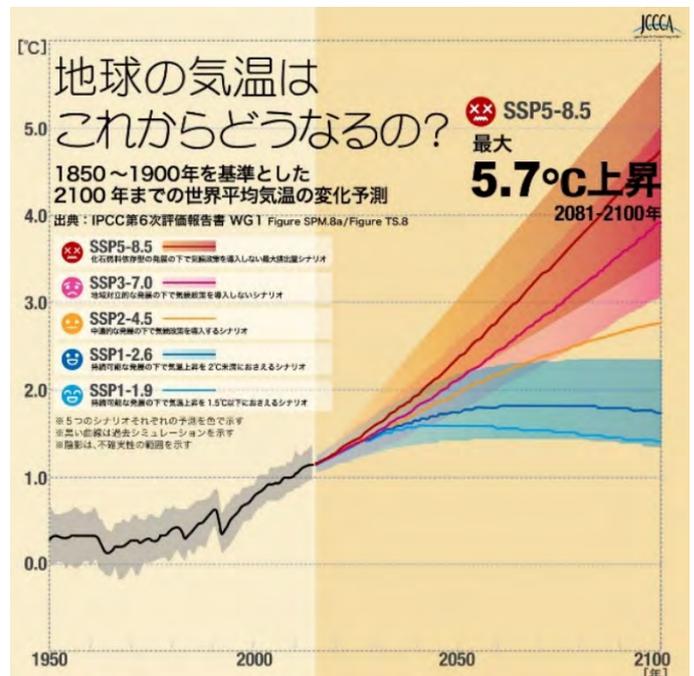


図 3. 地球の気温はこれからどうなるの？

想定できる 5 つのシナリオをグラフにすると、2100 年の時点で 1.5 度を超えてしまう事が示されました。

## ●COP26（国連気候変動枠組条約第26回締約国会議）



2021年10月31日～11月13日、イギリスのグラスゴーにて開催されたCOP26は、2030年までの残り10年間のうちの第1回目のCOPという事で注目されました。COP26の主な成果をいくつかお示します。

・「グラスゴー気候合意」の中で、世界が1.5度目標に向かって努力していく事が正式に合意され、公式文書に明記されました。

2015年に採択されたパリ協定においては、世界全体の目標を「平均気温を2度より充分低く保ち、1.5度に抑える努力を追求する」と定めていましたが、気候危機の被害を最小限に抑えるためには、1.5度に抑えることがより重要であるという世界的潮流を反映し、「1.5度」が事実上の基準となりました。

・先進国やその他の国による、途上国に対する支援強化のための更なる努力を続けることが決まりました。

2009年に掲げていた、「先進国は途上国に対し、2020年まで毎年1000億ドルを供給する。」という目標が未達に終わっています。1.5度目標を実現するには、これらの支援が不可欠となるため、今後できるだけ早く目標を達成する努力を続けること、次回のCOPより新たな資金目標設定の議論を始めること等が決められました。

・インド等いくつかの国が、1.5度目標達成のためにより厳しい新たな目標の設定を宣言しました。また、メタンの削減について米中が共同声明を発表する等、様々なテーマに対して、国や企業間の有志連合による声明が数多く公表されました。

現在、各国の削減目標を足し合わせても1.5°Cの達成には不十分であるところ、これらの全ての自発的な声明が実現すれば、2°Cを下回る可能性が見えてきました。

・パリ協定第6条に関する詳細が合意され、「二国間クレジット」が使用できる仕組みが整いました。

パートナー国に対して、脱炭素技術の普及等を行うことにより、パートナー国の削減分をクレジットとして分け合う事ができる仕組みが国際的に認められる事となりました。これは日本にとって重要な成果であり、2030年度の46%削減達成に向けての追い風となる事が期待されます。

## ●目標達成のために・・・

COP26において、日本は石炭利用を推進しているとして、世界から厳しい視線を向けられる場面もありました。

日本は目標としている「2050年カーボンニュートラル」に向け、まずは「2013年度比2030年度46%削減」の達成を目指さなくてはなりません、これは容易な事ではありません。

産業部門等において、新技術開発のための努力が懸命に進められていますが、この目標達成のためには私たち家庭部門での取り組みも目標達成の前提となっています。

（産業・業務・家庭・運輸の4部門のうち、約20%は家庭部門の削減目標です。）

家庭部門での排出量削減は、私たち一人ひとりに関わってくる部分であり、全員が取り組むことができる分野です。この度の第6次報告書の内容にあったように、地球温暖化は私たちの人間活動により引き起こしてしまったものですが、抑えることが出来るかどうか私たち人間の取り組み次第です。

住み続けられる地球を後世に残すためにも、一人ひとりが出来ることを考え、実践して行くことが大切になってきます。そのためにまずは「COOL CHOICE＝賢い選択」に取り組んでいきましょう。

発行：山口県地球温暖化防止活動推進センター  
（公益財団法人山口県予防保健協会内）  
〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目1-1  
TEL：083-933-0008ダイヤル「7」 FAX：083-923-5567  
URL：http://www.yobou.or.jp/ycccahome

### 編集後記

誌面でも紹介させていただきました、「ぶちエコアプリ」のポイント集めにはまっています。  
配信開始記念としてキャンペーン等行われていますので、皆様もぜひはじめてみてください！  
（安光）